



[teeta]



「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



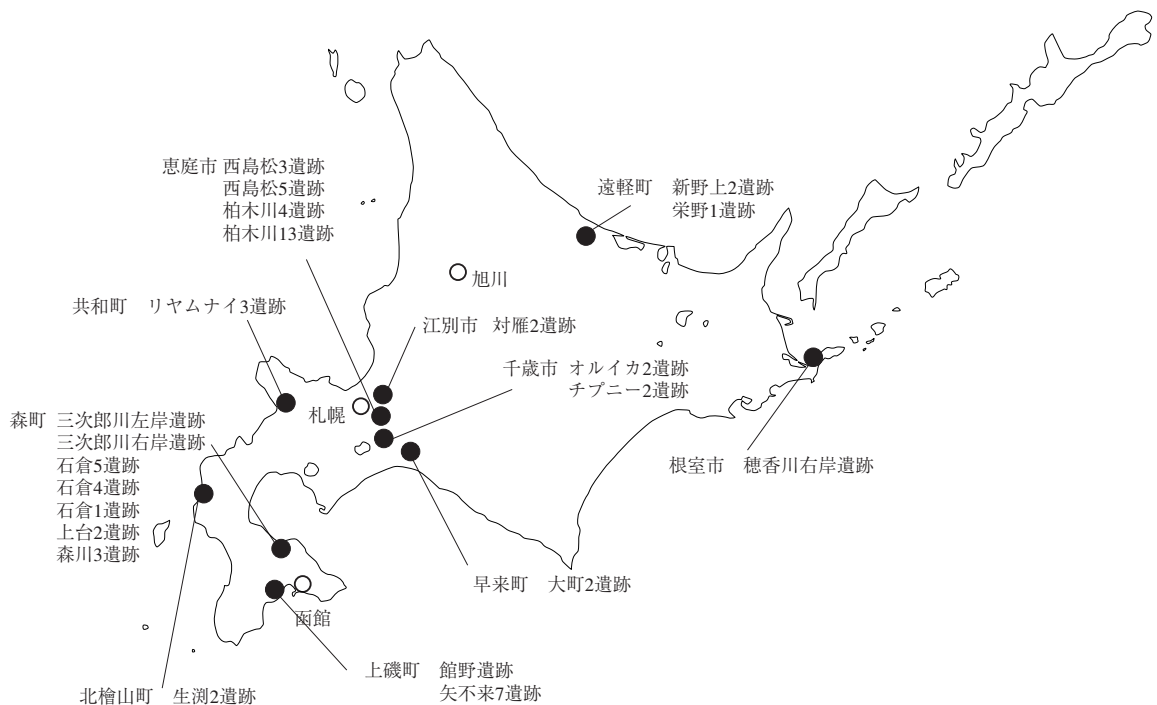
上磯町館野遺跡配石遺構（縄文時代後期）

- 平成16年度発掘調査遺跡2
- 平成16年度の調査3
- 定説・通説を疑ってみよう7
- センター25周年記念講演・シンポジウムのお知らせ7
- 人事異動8

○平成16年度発掘調査遺跡

委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積					
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事	オリイカ 2	千歳市	6,500				
			チブニー 2		14,700				
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	館野	上磯町	2,550				
			矢不來 7		整理作業 5,000				
	小樽開発建設部	一般国道276号岩内共和道路工事	リヤムナイ 3	共和町	3,500				
	室蘭開発建設部	一般国道234号早来町道路改良工事	大町 2	早来町	3,900				
	釧路開発建設部	一般国道44号根室市根室道路工事	穂香川右岸	根室市	5,000				
	網走開発建設部	一般国道450号白滝丸瀬布道路改良工事	服部台 2ほか	白滝村	整理作業 3,550				
整理作業									
日本道路公団	北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	三次郎川左岸	森町	280				
			三次郎川右岸		1,850				
			石倉 5		1,070				
			石倉 4		1,852				
			石倉 1		700				
			濁川左岸		3,660				
			上台 2		4,880				
			森川 3		2,780				
			三次郎川右岸ほか		整理作業				
北海道	石狩支庁（札幌土木現業所）	柏木川改修工事	西島松 5	恵庭市	3,892				
			西島松 3		975				
			西島松 5ほか		整理作業				
			柏木川 4		8,128				
	渡島支庁（函館土木現業所）	太櫓川広域基幹改修工事	生淵 2	北檜山町	1,800				
					網走支庁（網走土木現業所）	社名淵瀬戸瀬（停）線特1工事	新野上 2	速軽町	2,200
									柴野 1
合計				79,499					

（平成16年7月31日現在）



○平成16年度の調査

 ちとせ
千歳市オリイカ2遺跡

遺跡は、千歳市街地から北東約6km、馬追丘陵裾部にあります。平成14年度に続いての調査で、アイヌ文化期の集落（「コタン」）のようすが明らかになってきました。樽前a降下軽石（1739年）の下から、住居（「チセ」）跡や倉庫（「プ」）の跡が合計14軒検出されています。住居（「チセ」）跡には20cm程度の厚みをもった炉があり、焼土と灰が重なっています。その周囲から漁または編物の際に使う錘と考えられる石や、刀子などの鉄製品が出土しています。また屋外には、「送り場」と考えられる、骨片などが多量に含まれている灰や貝の集中域があります。



アイヌ文化期の建物跡

 かみいそ たての
上磯町館野遺跡

遺跡は、上磯町市街地から南西約5km、函館湾に面した標高60m前後の海岸段丘上に位置します。調査は昨年引き続き2年目となり、今年は縄文時代後期前葉（約4000年前）の配石遺構、盛土遺構などが検出されています。

配石遺構は長さ34m以上、幅約18mの大きさで、長軸30～75cmの石をU字形に並べた状態で検出されました。配石の石の大部分は、畑の耕作などにより動いたり抜かれたりしています。北西側は配石の並びが調査区外へ延びていると思われ、全体の形は不明です。配石の内側には、深さ約1.3mのフラスコ状ピット群があり墓の可能性ががあります。また、配石遺構の南側と北側には、配石と並行するように、長さ約32m、幅10m前後の盛土遺構が分布しています。盛土は厚さ0.3～0.7mあり、その中からは土器、石器、土製品・石製品、炭化物、獣骨などが多く出土します。



発掘調査の様子

 えべつ ついしかり
江別市対雁2遺跡

遺跡は、JR江別駅の北西約4km、石狩川左岸の世田豊平川との合流地点上流側にある河川敷緑地内に位置しています。調査は今年で6年目になります。これまでに縄文晩期後葉～続縄文中葉にかけての土坑・焼土等の遺構や土器・石器等の遺物が多く検出されています。調査によって、土器等の遺物の変遷は遺構・遺物の検出される生活面の順序と整合し、このことは遺構から検出した炭化物を用いた¹⁴C年代測定の調査結果とも矛盾がないことが確認されました。

写真は、土坑の上面から焼けた礫が集まって検出されたものです。焼土や炭化物が見られないことから、この場で焼かれたものではなく他の場所で焼いた礫をここに持ち込んだものと考えられます。



土坑遺物出土状況

もりまちさんじろうがわうがん
森町三次郎川右岸遺跡

遺跡は、森町市街地の北西方向11kmに位置します。三次郎川の右岸、河口から直線距離で約0.4km遡った地点、標高38～45mの河岸段丘上に立地します。平成15年度に引き続いての調査です。

今年度は縄文時代後期のものと考えられる配石が特徴的な遺構として挙げられます。ひとかかえもある礫を30個ほど、扇形に並べた状況が確認されました。この配石の北西側（川側）には同時期と考えられるフラスコ状土壙が数基並んでいます。配石の南東側には縄文時代後期前葉の土器が、まとまって出土しています。配石の東側にはやはり配石と同時期と考えられる竪穴住居跡が2軒検出されています。掘り込みが浅く、中央に石組炉があります。

他にベンチを持つ長軸6mほどの縄文時代の竪穴住居が検出されており、昨年の成果を踏まえると2軒が並んでいたものと推測されます。包含層の上位からは数的には少ないものの続縄文土器や擦文土器が出土しています。昨年度の調査では骨片を多量に含んだ続縄文時代の焼土群が検出されました。



配石遺構調査状況



竪穴住居跡調査状況

もりまちいしくら
森町石倉5遺跡

遺跡は、平成15年度から継続調査を行っています。昨年度は、山側部分を調査し、今年度は海側部分1,070㎡の調査を行いました。調査範囲は沢地形であり、最深部では高低差7m、幅20m以上となります。遺跡の北西側は三次郎川に向かって傾斜しており、この下の段丘には三次郎川右岸遺跡があります。

遺構は土坑2基を検出しました。そのうち尾根部分で検出したP-1は、坑底部から扁平に割った安山岩製の台石（長軸55cm×短軸46cm×厚さ12cm）が出土しました。遺物は縄文時代前期後半の円筒土器下層式土器をはじめとして、石鏃、石斧、北海道式石冠、石鋸、すり石、たたき石、台石、扁平打製石器、フレイク、礫など約5,000点が出土しました。6月末に調査を終了しました。



土坑完掘

もりまちいしくら
森町石倉 4 遺跡


遺跡調査状況

遺跡は、森町市街地から八雲町に向かって約10km、山地から海岸に迫る標高40～60mの高位段丘上に位置します。北西側には石倉5遺跡があります。調査範囲(1,852m²)は工事用道路により分断されており、まず道路の海側部分から調査に着手し、道路の切り替えの後、道路より山側部分の調査を行いました。

検出された遺構は、焼土1カ所です。遺物は縄文時代中期前半の円筒土器上層式土器、後半の大安在B式土器をはじめ、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、台石、扁平打製石器、メノウ原石、礫など約12,000点が出土しました。礫のほとんどは安山岩です。6月末に調査を終了しました。

 もりまちうわだい
森町上台 2 遺跡


畑遺構調査状況

遺跡は、標高90～105mの火砕流台地上にあります。地形は西から東に向かって低くなる緩い斜面です。昨年度からの継続調査で今年度は4,880m²の調査を行う予定です。昨年と同様、畑跡が検出されています。駒ヶ岳火山灰d層(Ko-d：1640年降灰)直下から確認できることから、近世に作られたと考えられます。畑跡は幅20cmほどの溝状の耕作跡が地形の傾斜に沿うよう、白頭山一苦小牧火山灰(B-Tm：10世紀前半降灰)を切って作られています。間隔は約1m開けて作られているものが多くみられます。明瞭な畝は検出していないので、おそらく、溝状に耕作したところに作物を植えたのではないかと考えられます。畑跡の広さは昨年度の調査を含め、延べ10,000m²になります。このほか、縄文時代早期、中期、後期の土器、石器類が出土しています。

 もりまちもりかわ
森町森川 3 遺跡


竪穴住居跡調査状況

遺跡は、森町市街地の西側、海岸から約2km内陸に入った森川の河岸段丘に位置し、標高は約95mです。平成14・15年度に2,260m²の調査を行い、今年度は約3,000m²の調査予定です。これまでの調査で近世の畑跡・続縄文時代・縄文時代の遺構・遺物が検出・出土しています。畑跡は駒ヶ岳火山灰d層(Ko-d：1640年降灰)の下から検出され、畝立てが認められるものもあります。また、時代を特定できそうな煙管の雁首が出土しています。火山灰直下から直径20～25m、深さ約1mの大きな窪地を3カ所検出しました。そのうちの1カ所は、縄文時代前期後半のもので、長軸13m・短軸10mの大型住居跡で、掘り上げた土は竪穴の周囲にC字状に認められます。

えにわ にししまつ
恵庭市西島松 3・5 遺跡

遺跡は、恵庭市のJR恵み野駅から北東に約800m離れた柏木川とキトウシュメンナイ川にはさまれた標高約25mの沖積低地上に位置します。調査は平成12年度から継続して行われており、5年目になります。今年度は縄文時代後期後葉～晩期前葉の土坑約150基を中心に調査を進めています。土坑からは昨年と同様に櫛や腕輪などの漆製品や、多量の玉類、石棒、サメの歯の装飾品などが出土しています。

また、現代の削平で全体像は不明ですが、墓の分布や副葬された遺物などから、周堤墓であった可能性のある土坑墓群なども見つかっています。



墓坑調査状況

えにわ かしわざがわ
恵庭市柏木川 4 遺跡

遺跡は、恵庭市街地から北西方向に約2km柏木川右岸の標高約40mの河岸段丘上に位置しています。柏木川を挟んで対岸には、擦文文化期、縄文時代晩期の土坑墓が検出され、縄文時代中期の柏木川式土器が出土した、柏木川1遺跡があります。

本遺跡は今年度が初めての調査となりますが、現在までに住居跡1軒、土坑32基、焼土12カ所が検出されています。遺物は縄文時代晩期、中期の土器が多く出土しています。

なお来年度以降の調査となる地区において、擦文文化期の住居とみられる明瞭な窪みが2カ所残っているところがあります。



包含層調査状況

きたひやま なまぶち
北檜山町生漕 2 遺跡

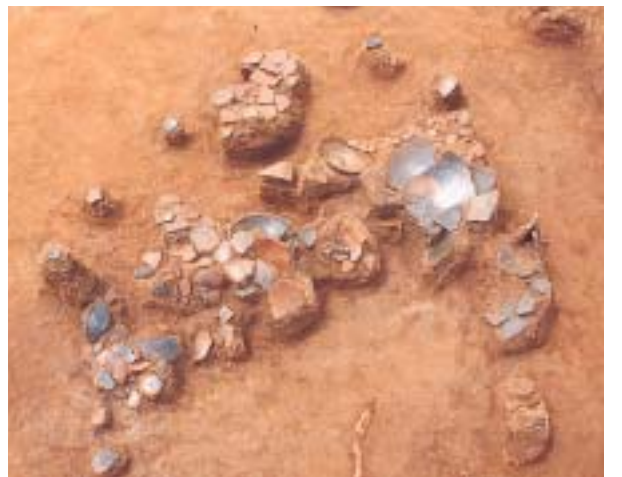
遺跡は、北檜山町の市街地より南西へ約7km行った共和地区にあり、太櫓川^{ふとろ}下流の左岸、標高2～3mの沖積低地上に立地しています。

遺跡の主体となる時期は、縄文時代晩期前葉～中葉です。遺構は、土坑1基、焼土9カ所、フレイク・チップ集中5カ所、遺物集中1カ所が検出されました。遺物集中は、大量の土器・石器やクルミの破片などが集積したもので、植物食料の加工作業を行った場と考えられます。

遺物は、約10,000点が出土しました。

また、駒ヶ岳火山灰d層（Ko-d：1640年降灰）の下から、鞘に納められた刀が出土しています。

調査は7月8日で終了しました。



土器出土状況

○定説・通説を疑ってみよう

昨年5月に「弥生時代の開始は500年遡って紀元前1000年か？」と報道発表されてから1年以上経ちましたが、この間『考古学研究』『日本考古学』『考古学ジャーナル』などの専門誌に賛否両論が掲載されたり、『弥生時代千年の問い』『揺らぐ考古学の常識』『弥生時代の実年代』などの単行本が矢継ぎ早に刊行されました⁽¹⁾。また本誌11号にも西田部長が年代測定値に疑問を投げかけ、従来説でいいとされています。

私が大学で考古学を学んでいた頃は、弥生の開始は紀元前3世紀というのが定説⁽²⁾で、20年ほど前から研究者の間では前4～5世紀と考えられ、定説化しつつありましたが、今回自然科学の分野から開始年代について問題提起され、その数値に驚くとともに、ことは当然弥生だけの問題ではなく、弥生の専門でない私にとっても、無関心ではられません。

測定方法自体や土器付着炭化物試料の測定値への疑問も出されています⁽²⁾、その分野の研究者の論評を是非うかがいたいものです。考古学の立場からは、一部の研究者がすでに行っていますが、他の地域・他の事象との整合性を再検討して見る必要があるでしょう。これまでは、紀元前3世紀説では燕の遼東半島への進出(前312-279)が、前5世紀説では戦国時代の動乱が弥生開始の背景にあるのではないかとされてきましたが、今回の数値では殷の滅亡・西周の成立(前1046)がその背景にあるのでしょうか。とすれば、今年5月末に中国陝西省で西周時代の巨大陵墓群が発見されたとのこと、発掘の成果に非常に関心があります。

本年9月、当センターも設立25周年を迎えますが、この間新知見はもとより定説・通説に疑問を投げかける資料も出土しました。今発掘シーズン真只中、どんな資料に巡り会えるのでしょうか。さあ、一度は定説・通説を疑ってみよう。

(第1調査部長 千葉英一)

(1) ほかに『歴博』120、『東アジアの古代文化』116があるが、後者については未読。

(2) 大槻瓊士 2004「放射性炭素14C年代測定法の問題点」『古文化談叢』51

西田 茂 2003「年代測定値への疑問」『考古学研究』199

2004「ふたたび年代測定値への疑問」『考古学研究』201

○センター25周年記念講演会・シンポジウムのご案内

今年は当センターの設立25周年にあたります。これまで当センターが調査した多くの遺跡のうち、恵庭市の西島松5遺跡からは、擦文時代初頭の^{わらびてとう}蕨手刀・^{ちよくとう}直刀が大量に発見され、話題を呼びました。また、千歳市のウサクマイN遺跡では、擦文時代の遺物包含層からオホーツク式土器と^{ふじゅうしんぼう}富壽神寶2枚が発見されました。^{おくしり}奥尻町の^{あおなえさきやう}青苗砂丘遺跡からは、オホーツク文化期の墓やヒグマの頭骨が発見されています。

これらの遺跡は、いずれも北海道の古代を解明するだけではなく、後続するアイヌ文化の源流を探るうえでも重要な遺跡です。

この講演、シンポジウムでは、上記の遺跡から出土した^{もりがしら}銛頭(海獣漁の道具)と蕨手刀にスポットをあて、古代北海道と本州の交流、毛皮・鉄交易の実態に迫るとともに、アイヌ文化の成立について考えていきます。

財団法人 北海道埋蔵文化財センター設立25周年記念
講演会・シンポジウム

『アイヌ文化の源流を探る-擦文文化・
オホーツク文化研究の最前線』

日時：2004年11月20日(土)10時～15時30分

場所：札幌市コンベンションセンター中ホール

<札幌市白石区東札幌6条1丁目 電話 011-817-1010>

入場無料



○人事異動

○常勤役員の選任

常務理事 佐藤俊和 (4月1日付)

○退職

市原祺清 (参与) (3月31日付)

大坪貞昭 (参与) (3月31日付)

○採用

総務課長 松本 繁 (4月1日付)

業務課参与 中村輝夫 (4月1日付)

会計課参与 菊地隆雄 (4月1日付)

○転入

総務部長

佐藤英一

北海道教育庁空知教育局主幹から (4月1日付)

第1調査部長

千葉英一

北海道教育庁生涯学習部文化課主幹から (4月1日付)

第2調査部第4調査課長

工藤研治 北海道教育庁生涯学習部文化課主査から

(4月1日付)

○転出

畑 宏明 (常務理事兼第1調査部長)

北海道教育庁生涯学習部文化課参事 (4月1日付)

下村一久 (総務部長)

北海道立特殊教育センター副所長 (4月1日付)

阪口博治 (総務課長)

北海道遠軽高等学校事務長 (4月1日付)

種市幸生 (第1調査部第2調査課長)

北海道教育庁生涯学習部文化課主査 (4月1日付)

西脇対名夫 (第1調査部普及活用課主任)

北海道教育庁生涯学習部文化課主任 (4月1日付)

○昇任

第1調査部第1調査課長

田口 尚

第1調査部第1調査課主査から (4月1日付)



◆交通案内◆

- ・JR大麻駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
 - ・JRバス・夕鉄バス (文教通西循環線・文京台南町行) に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
 - ・JRバス・夕鉄バス (江別方面行き) に乗車「道浅井学園大札学院大前」下車、徒歩15分